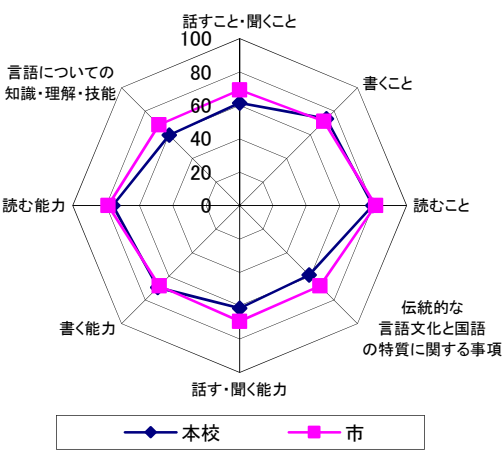


宇都宮市立城山東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	61.5	69.3	73.4
	書くこと	73.6	71.3	74.6
	読むこと	79.8	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	58.9	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	61.5	69.3	73.4
	書く能力	69.4	68.1	71.7
	読む能力	76.0	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	59.7	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

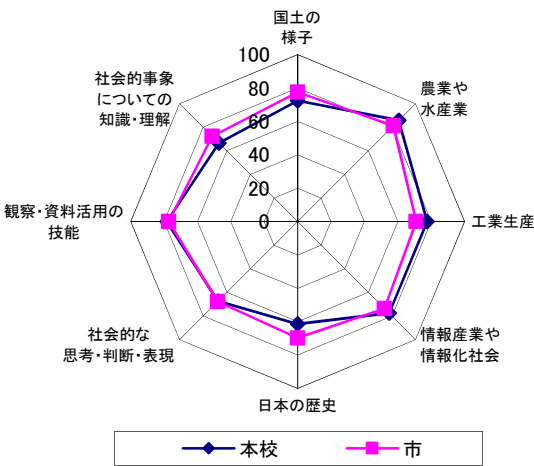
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○司会者の役割を理解して、計画的に話し合うことの問題では正答率が89.7%と9割近い正答率となった。 ●話し手の意図を考えながら話し合いの内容を文でまとめる問題は、課題である。	・国語だけでなく、学級活動などでも話し合い活動を多く取り入れ、体験的に学べるようにする。また、日頃から話したり、聞いたりする活動の際には、話し手の意図を考えながら聞いたり、理由と共に意見を述べたりできるように指導していく。
書くこと	○指定された長さで文章を書く問題では、正答率が89.7%で市の平均を大きく上回った。 ○自分の意見を明らかにして文章を書く問題では、正答率が100%となった。 ●グラフの内容を読み取って、文章に書き表す問題では、正答率が4割に満たず、市の平均よりも大きく下回った。	・授業だけでなく、朝の時間や家庭学習などで文章の要約や、新聞記事に対して自分の意見を書くような活動を多く取り入れていく。 ・グラフの読み取りについては、国語だけでなく、社会や算数など他教科ともつながりをもって指導をしていく。
読むこと	○目的や必要に応じて、場面の描写と登場人物の心情を読み取る問題では正答率が100%となった。 ●説明文の内容を読み取る問題では、問題文中にはない言葉で要点を書き換える練習が必要である。	・物語の読み取りについては、日頃の読書活動を熱心に行っている成果が表れている。場面の描写や、登場人物の心情などを考える際は、グループでの話し合い活動などを取り入れ、深い読み取りができるように指導する。 ・説明文の読み取りでは、筆者の考えを要約させたり、考えの理由に当たる部分を見つけたりすることで、適切に文章を読み取らせる指導を行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○●漢字の読みについては、市の平均を上回る項目があった。漢字の書きについては、定着していない児童が多く、課題である。 ●三字熟語の構成についての問題では、個々の漢字の意味の理解が課題である。	・漢字の読み書きは当該学年以前の漢字から繰り返し復習を行い、定着を図っていく。 ・文の構成については、朝の学習や授業の始めの時間などにミニプリントなどを使い再度確認し、定着させる。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	72.4	77.5	74.0
	農業や水産業	85.8	81.1	73.7
	工業生産	77.6	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	77.6	73.7	63.2
	日本の歴史	61.4	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	67.4	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	78.3	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	66.6	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

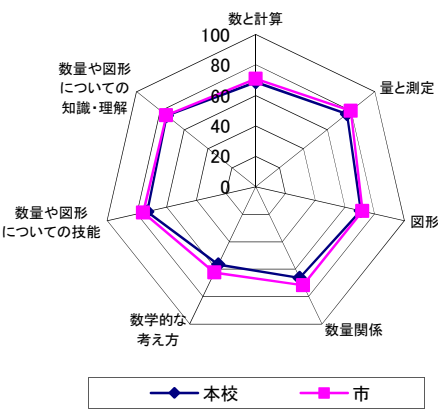
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○日本の周辺の海洋の名前や気候の様子についての設問では、正答率が約8割で、市の正答率を上回った。 ○防災マップや会話を参考に、自然災害がおきた際の自助の大切さについて考えて表現する設問では、市の正答率を上回った。 ●森林を守るための間伐については、理解が不十分であった。	・周辺の海洋名や主な国の名称と位置については、今後も世界地図や日本地図などの掲示資料や地球儀などを活用し、児童自身が日常的に自ら確認できる環境を整え、日本とつながりのある諸外国との関係について学ぶ際にも、その都度場所を確認するなど、関連付けて学習できるよう工夫していく。 ・わたしたちの生活と環境については、よりよい環境にするために、人々がどのような活動をしているのかについて丁寧に学習をしていく。
農業や水産業	○日本の食料生産についての設問では、すべての設問で市の正答率を上回った。特に、農業で働く人々がかかえる問題について、複数の資料から読み取り考えて、表現する設問では、正答率が約9割であり、資料を的確に読み取り、文章で表現する力が身に付いてきているといえる。	・今後も、社会科や総合的な学習の時間などで、複数の資料を読み取り、考えを表現する活動を多く取り入れていく。
工業生産	○化学工業の製品についてや工業地帯・工業地域の立地についての設問では、正答率が市の平均を上回り、おおむね理解しているといえる。	・工業生産については、地域の特色や輸送の働きなどと関連付けながら学習を進めていく。
情報産業や情報化社会	○身のまわりのメディアや医療における情報ネットワークの利便性についての設問では、市の正答率を上回った。	・今後も、身のまわりの情報メディアの特徴を理解させるとともに、その利便性や活用する上での問題点など、自分の生活と結び付けて考えられるように指導を行う。
日本の歴史	○●日本の歴史の領域では、織田信長の働き、日清・日露戦争の理解については9割に近い正答率であった。一方で、縄文時代から平安時代に関する設問や、文化面に関する設問で課題が見られた。	・歴史の領域では、興味、関心に個人差が大きく見られることから、歴史に関する書籍の紹介するなど、歴史に関心がもてるような環境を整え、興味をもって学習に臨めるように配慮する。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.7	70.8	65.9
	量と測定	76.4	79.9	77.0
	図形	70.7	71.8	74.6
	数量関係	66.4	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	56.7	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	73.1	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	74.8	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

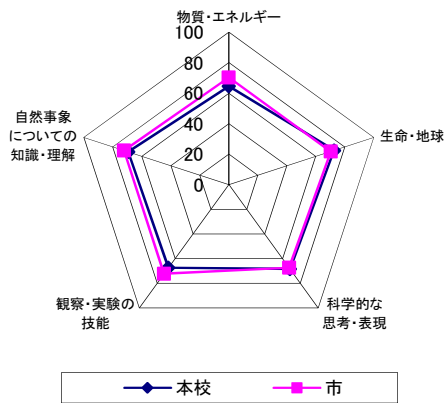
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数の計算の問題はどの項目も市の正答率を上回る結果となった。特に、分数×整数、分数÷分数の計算は正答率が93.1%と高い数値となった。 ●小数×小数の計算や、図を見て小数倍の文章問題を解く式を選ぶ問題は、課題である。	・小数点の処理については、小数のたし算や引き算との違いが明確になるように繰り返し復習を行い、確実な定着を図る。 ・文章問題では、数直線や図などを用いたり、具体的な場面に当てはめたりして理解しやすくし、正しく立式する力を身に付けられるようにする。
量と測定	○道のりと時間から、時速を求める式を選ぶ問題では、正答率が9割を超え、市の正答率を上回った。 ○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では正答率が8割を超え、体積の求め方がよく身に付いている。 ●円と正方形を組み合わせた図形の面積を求める式から、求め方を示した図を選ぶ問題は、課題である。	・割合の問題については、比べられる量、もとにする量、割合の関係を確認し、問題に出てくる数がどの量を示しているかを理解できるよう指導していく。 ・複雑な形の面積を求める時には、答えを出すだけでなく、どのように考えたかを説明する活動を取り入れ、理解を深めさせる。
図形	○●点対称な図形の対応する点を答える問題では、正答率が9割を超え、市の正答率を上回ったが、線対称な図形の、対称の軸についての理解が不十分であった。 ○合同な三角形の作図では、正答率が96.6%と高い数値となった。作図の仕方についてよく理解できている。 ●五角形の内角の和を求める式を選ぶ問題では、理解が不十分であった。	・線対称な図形と点対称な図形については、それぞれの特徴を再度確認し、様々な図形の問題に取り組まながら定着を図る。 ・多角形の内角の和の求め方は、三角形の内角の和が180度であることをもとに考えていくことを確認するとともに、作図をする際には、機械的に手順を追っていくのではなく、図形の性質を理解して作図するように指導する。
数量関係	○比例の関係を、xとyを使って式に表す問題では、正答率が9割を超え、比例の関係式をよく理解しているといえる。 ●反比例の問題は、面積の解き方と関連付けて考えることが課題である。 ●一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率が低く、文字式の理解が不十分であったといえる。	・比例や反比例の問題では、日常生活の中から比例や反比例の関係にある事象を見つけ出すなど、比例や反比例の意味を理解できるように指導を行い定着を図っていく。 ・文字を使った式では、当該学年より下の学年の問題から繰り返し復習をし、定着を図る。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.5	70.3	69.0
	生命・地球	72.6	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	68.3	67.5	66.4
	観察・実験の技能	67.4	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	69.4	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○実験結果が違った理由を推測する設問では、正答率が8割を上回っており、実験をする際の結果の見方や考察の仕方が、身に付いているといえる。 ○●「ふりこのきまり」では、1往復の動きや周期の計算についてはおおむね理解できているといえるが、ふりこの周期とふりこの長さとの関係の理解が不十分であった。 ●「物のとけ方」では、食塩を溶かす前と溶かした後の全体の重さが変わらないこと、水に溶けた物の取り出し方についての理解に課題がある。また、「水溶液の性質」でも、すべての設問で市の平均を下回った。	○「ふりこのきまり」については、1往復の時間とふれはばの関係や長さによる周期の変化を、実感を伴って実験が行えるよう工夫するとともに、実験結果を基に性質として理解できるようにしていく。 ・「物のとけ方」「水溶液の性質」では、「溶かす」ことについて再度理解を深めるとともに、何の水溶液が判別できるよう水溶液の性質を確認させたり、酸性とアルカリ性の性質についてリトマス紙の反応を整理させたりするなどの指導を行う。
生命・地球	○「植物の発芽と成長」については、インゲンマメの種子が肥料を与えなくても発芽する理由について説明する設問での正答率が9割を上回った。また、植物の発芽についての対照実験の目的についての設問でも、約9割の正答率であった。「植物のつくりとはたらき」についても、実験で準備するものの理由を考える設問、実験の結果について考察する設問の正答率が高く、観察、実験における思考力が身に付いてきているといえる。	・どの内容についても、おおむね理解しているといえるが、「動物のからだのつくりとはたらき」や「植物の発芽と成長」では、学習した知識が定着していないところも見られたので、復習することで定着を図っていく。

宇都宮市立城山東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	・「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施 ・朝の学習におけるTT(複数の教員での指導)の実施 ・既習の計算を織り交ぜた復習問題の実施	国語の漢字の読み・書きでは、市の平均を下回っている。特に、書きについては正答率が定着していない児童が多く課題である。算数の計算問題では、「小数第一位×小数第一位」の問題を除いて、すべてで市の平均を上回っている。
実感を伴った知識を身に付けるための、操作的・体験的活動の充実	・様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする操作的・体験的な活動の充実 - 算数の長さ、面積、かさ、重さなど - 理科の観察、実験	理科において、実験結果が違った理由を推測する設問では、正答率が8割を上回っている。また、実験で準備するものの理由を考える設問、実験の結果について考察する設問の正答率が高かった。
思考力・表現力を育むための効果的な指導の充実	・話し合い活動の日常化 ・話し合いのねらいと視点の明確化 ・指導法についての校内研修の実施 ・活用問題に取り組む「パワーアップタイム」の実施(朝の学習)	アンケートにおける授業の取組についての設問で、「話し合いに進んで参加している」と回答した児童は、低学年では9割を超えているが、中・高学年では7割程度であり、市の平均を下回っている。「ものごとを比べながら(中学年)いろいろな視点から(高学年)考えている」と回答した児童は約8割で、市の平均を上回っている。 6年生の、活用問題については、理科で市の平均を上回る問題が多く見られた。算数では、分数の問題は市の平均を上回っているものの、全体としては活用の力に課題がある。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・「家庭学習の手引き」の活用(児童・保護者) ・地域学校園共通の合言葉「宿題プラス1」の周知・徹底 ・年2回の「家庭学習がんばり週間」の実施と自主学習の実践の紹介	アンケートにおける一日の学習時間を見ると、どの学年も地域学校園で目安としている時間(低学年…20分、中学年…40分、高学年…1時間)の家庭学習がおおむねできていることが分かるが、休日の学習時間は少ない傾向が見られる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・今年度は、特に算数における計算問題などの基礎・基本の定着に力を入れてきた。6年生の市の調査や、3～5年生の学年のまとめの調査における結果を見ると、成果が出てきている。次年度も引き続き、宮っ子学習ステップアップシートの活用や既習の計算を織り交ぜた復習問題の作成と活用、朝の学習におけるTTの充実などにより、基礎・基本の定着を図っていく。また、国語の漢字の読み・書きについては課題が見られたので、指導の工夫を行い、定着を目指す。
- ・6年生の市の調査では、理科の活用の正答率は市の平均を上回ったが、算数の活用は平均を下回った。思考力や表現力は少しずつ育ってきているので、次年度も、操作的・体験的な活動、話し合い活動を充実させるとともに、活用問題にも取り組ませていくことで、思考力・表現力の育成を図っていく。
- ・家庭学習については、市のアンケートの結果を見ると、テストでまちがえた問題の直し直しをすることや自分で計画を立てて学習を進めることに課題がある。次年度も「学び通信」などを通して家庭に向けた情報発信を行っていくとともに、児童の取組を積極的に紹介していく。